

所員の研究，試験および検査に関する発表を主とする「衛研例会」は，昭和26年から原則として毎月第2火曜日，第一会議室において開催されているが，平成14年度に行った演題は次のとおりである．

第438回(平成15年3月11日)

1. 変異遺伝部とレギュラトリーサイエンス
変異遺伝部 林 真
2. 新しいヒト型遺伝毒性試験系の構築と，targetted mutagenesisによる突然変異誘発機構の解明
変異遺伝部 本間正充
3. 遺伝毒性試験に用いるトランスジェニックラットの開発
変異遺伝部 能美健彦
4. 細胞バンクの18年
変異遺伝部 水澤博
5. 染色体テリトリーの間期核における3次元核内配置の解析
変異遺伝部 田辺秀之
6. 形質転換試験の発癌プロモーター検出への適用と形質転換プロモーション期に認められる遺伝子発現変化
衛生微生物部 酒井綾子
7. ペンタクロロフェノールのマウス肝発がん修飾機構の検討
病理部 梅村隆志
8. DNAヘリカーゼ原因遺伝子疾患と，酵母DNAヘリカーゼSgs1の機能解析
薬理部 宮島敦子

支 所 例 会

第181回(平成14年10月29日)

1. 日本薬局方の第十五改正に向けての方針
薬品試験部 谷本 剛
2. 食用タール色素アルミニウムレーキ中の水溶性塩化物及び水溶性硫酸塩について
食品試験部 中野 真希
3. ラット妊娠初期に投与した塩化トリブチルスズの着床および黄体機能に対する影響
生物試験部 原園 景

第182回(平成14年12月24日)

1. ヘリックス型タンパク質アポA-Iの水溶液構造
薬品試験部 斎藤 博幸
2. 熱帯病に対する新たな治療薬の開発に関する研究
薬品試験部 小出 達夫
3. 食品中のフェノール系酸化防止剤の定量・確認試験について
食品試験部 辻 澄子
4. ブドウ種子抽出物, ブドウ種子抽出物を含む健康食品及びブドウ種子油中のプロアントシアニジンの分析について
食品試験部 中村 優美子

第183回(平成15年1月28日)

1. HPLCによる農産物中のフェノキサプロップエチルの分析法の検討
食品試験部 石光 進
2. 農作物中のエマメクチン安息香酸塩およびその代謝

物, アバメクチン, ミルベメクチンおよびイベルメクチンのLC/MSによる迅速分析法

- 食品試験部 吉井 公彦
3. 食品添加物の摂取量調査
生物試験部 石綿 肇
4. アンチジェン法によるヒトEGF receptor遺伝子の発現制御に関する基礎的研究
生物試験部 田中 寿一

第184回(平成15年2月25日)

1. 日局「有機体炭素試験法」の改正について
支所長 岡田 敏史
2. 培養マウスケラチノサイトにおいて新たに同定されたIGSR-1遺伝子はプロセシング段階での発現調節を受けている
生物試験部 天野 博夫
3. 最近の食品衛生における諸問題と食品衛生法の改正について
食品試験部 外海 泰秀
4. HPLCによるかんきつ類中のN-メチルカルバメート系農薬及びそれらの代謝物の含ハロゲン溶媒不使用同時分析
食品試験部 津村 ゆかり
5. TヘルパーI型細胞の機能に及ぼす黄色ブドウ球菌(*Staphylococcus aureus*)ペプチドグリカンの抑制作用について
生物試験部 中川 ゆかり

平成14年度 特別講演会開催状況

No.	開催年月日	講演者	所属	講演名	経費
1	7月26日(金)	堤 定実	京都大学再生医科学研究 所 教授	軟骨と歯根膜の動的力学解析と 再生の研究状況	所予算
2	9月11日(水)	岩田 久人	愛媛大学沿岸環境科学 研究センター 助教授	水圏野生生物における内分泌攪 乱物質レセプターとチトクロームP 450	〃
3	9月17日(火)	井川 洋二	理化学研究所 特別招 聘研究員(井川特別研 究室)	細胞の守護神p53の先祖型ホモ ログの発見と生理機能の探索	〃
4	10月10日(木)	山本 順子	九州大学大学院医学研 究院成長発達医学 医 員	ダイオキシン毒性の客観的評価法 に向けたダイオキシン受容体関連 遺伝子群の定量系の確立	〃
5	10月11日(金)	今成 登志男	千葉大学大学院薬学研 究院生体分析化学研究 室 教授	生体内グリコサミノグリカンの分析 法の開発とその機能解明	〃
6	10月22日(火)	小松 かつ子	富山医科薬科大学和漢 薬研究所附属薬効解析 センター 助教授	分子生物学的手法を応用した生 薬の同定	〃
7	11月 7日(木)	平塚 明	東京薬科大学 助教授	グルタチオンによる活性酸素の消 去	〃
8	12月10日(火)	黒澤 努	大阪大学医学部動物実 験施設 助教授	国際ルールを基盤としたバイオメ ディカルサイエンスの発展:実験動 物福祉の観点から	〃
9	2月 5日(水)	小野 宏	食品薬品安全センター 所長	OECDガイドライン・急性経口毒性 401の歴史と廃止および 403,420,423,425等のガイドライン	〃